

みやけの風

第 152 号

平成15年(2003年)11月29日(土)発行
 発行：三宅島災害・東京ボランティア支援センター
 発行責任者：上原 泰男
 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ 10階
 東京ボランティア・市民活動センター 気付
 TEL：03-3260-7573 FAX：03-5229-1646
 E-mail：tokyocenter@cmppo.org

ふれあい集会にはたくさんの島の方が参加されました。島民発表も今まででいちばん多い集会でしたが、朝から寒かったので帰ってからの皆さんの体調が気になっていませぬ。風邪など引いていませんか。翌日は朝から雨でしたので、一日ずれなくて本当に良かったです。各地で、また当日会場で集会にご協力くださった皆さん、ありがとうございました。

みんなの声

はじめてのふれあい集会

昨日は、島民ふれあい集会に個別配車をしていただき、本当にありがとうございました。

なつかしい方々にお目にかゝったり、めったに口にする事のないご馳走をいただきます、とても楽しいひとときを過ごさせていただきました。

また、往復の車窓から変貌する都会の姿をまのあたりにし、昔日の感を新たにもいたしました。ご親切な配慮を下さり、感謝に耐えませぬ。お礼にかえさせていただきます。(杉並区 遠藤 正子・芙美子)

暖かい優しい心には、嬉しい気持ちを

ふれあい大会(三宅島島民ふれあい集会)も無事終わり、冬の気配も濃くなって来ました。

先日のふれあい大会では、私たちのフラダンスも参加させていただき、ありがとうございました。早や、4度目の冬を迎える島民にとって、はなればなれになっている人たちの元気な顔に逢えるのは、本当に嬉

しいことです。

島に帰ったら皆と共に楽しみたいと思い習い始めたフラでしたが、こういうかたちで披露でき、島の友人も喜んでくれました。また、協力してくれた仲間も、『ふれあい大会』が多くのボランティアに支えられて行われているのを実際に見て、大変感激していました。

久しぶりにあった島の小母ちゃんの嬉しそうな笑顔や駅前でプラカードを持って案内係をしてくれた人たちの姿を思い出しています。

回を重ねる度に思う事は、あの大会を支えてくれているたくさんのボランティアの方々の事です。私たちは、只にぎやかに楽しく遊ばせていただくけれど、その陰で頑張ってくれている人たちに感謝しましょう。何でもやってもらって当たり前ではなく、暖かい優しい心には、私たちも嬉しい気持ちを素直に表しましょう。

ボランティアの皆さまお疲れ様でした。いつも本当にありがとうございます。体に気をつけて、ますますのご活躍を応援しています。

(川口市 神着 高橋 きみ枝)

三宅島島民ふれあい集会ご報告

去る11月24日の月曜日・振替休日、第7回になる三宅島島民ふれあい集会が、港区立芝浦小学校・幼稚園にて、盛大に開催されました。秋の一日、曇り空のもと少し寒い日ではありましたが、何とかお天気ももって、たくさんの方々に楽しんでいただけたのではないかと思います。当日の模様を、次ページですこしダイジェストでお伝えします。

校庭ステージ

今回、主催者挨拶、三宅村、東京都、港区、前副知事青山氏のご挨拶の後、定番の神着木遣太鼓、伊ヶ谷獅子舞が披露され、場を盛り上げました。そのあと、今回の目玉、島民発表会が行われました。避難先での日頃の成果をこの機会に皆さまに見ていただこうと、フラダンス、日本舞踊「望郷の歌」、三宅島ふるさとバンドの演奏と熱演が続きました。

飲食テント

前回同様、14の団体が飲み物や食事を提供するブースを出展しました。寒かったこともあり、暖かい飲み物や温かい汁物などに人気が集まり、午前中にはほとんどのお食事がなくなるほどの盛況でした。



イベントテント

やはり、島の状況を写したビデオに人気が集まっていました。また、今回初出展の『観光協会による火山灰プリント』は体験もでき、子ども達も含め多くの方の注目を集めました。



島民作品展

今回、出展作品数は前回に及ばなかったものの、作品もぐんとレベルアップし、凝った作品がたくさん見られました。あわせて行われた、三宅村高齢者支援センターの体験コーナーは、多くの方で賑わっていました。前回に引き続き、室内での島民発表会として、胡弓、大正琴と一段と上がった腕前を披露してくださり、たくさんの応援の拍手を受けておられました。

体育館プログラム

今回初参加の『新日本フィルメンバーによるPanasonicふれあいコンサート』には、皆さんうっとり聞き入っていました。また、定番の『島民合唱団アカコッコ』の合唱では、体育館の入り口に人が溢れるほどの入りとなり、最後の曲『ふるさと』では、会場の皆さんも声を合わせて合唱する姿が見られました。その後、以下のようなお話がありました。

気象庁地震火山部：今三宅島の雄山の下で何が起きているのか？火山学的に観測してきた中でここ3年間どのように推移してきたかということを知りやすく説明

地震噴火予知連会長：火山ガスの放出量について、「何とか知恵を絞って年内に検討を進めていきたい」

東京都：これまで皆様方が避難されている環境を至らない点も多いと思うが少しでも快適に過ごすために努力を重ねてきた。いよいよ帰島が具体的になった場合に急に準備をするわけには行かないので、都をあげて対策を練っている。もっと具体的に国、村と一緒に考えていくための取り組みを進める。帰島のときのいかに皆様が無事に帰れるかを現実を踏まえて議論をしていきたい。東京都としても皆様と一緒にいろいろな事を考えていきたいと思う。

三宅村(助役)：現在は帰島のめどはついていないが三宅島火山ガス検討会からの目安などをふまえて帰島に向けた取り組みが進められ、これらの明るい兆しが出てきたものと考えている。村としては早期帰島に向けて取り組みを続ける。村は帰るときは「一斉帰島」つまり全島民が帰れる状況をもって避難指示解除を出したいと考えている。対話集会についても皆さんの意見を反映させることは是非必要だと考えている。

ミニ懇談会などの場も利用してご意見を寄せてください。

最後に、実行委員会事務局の三宅島災害・東京ボランティア支援センター事務局長上原よりの皆さまへの応援のメッセージで、体育館プログラムを終了しました。